

ふれあいバス 走る

ふれあいバスは、昨年4月より大学・病院・企業・バス運行事業者と町との共同により、運転免許を持っていない、自家用車がない、送迎してくれる人がいないといった人々や、市街地の施設に接続するために必要な“地域の足”としての役割を果たすため、国の補助を受けて試験運行をはじめました。

今年度も引き続き国の補助を受け、試験運行を行い、来春以降の自立した本格運行を目指しています。

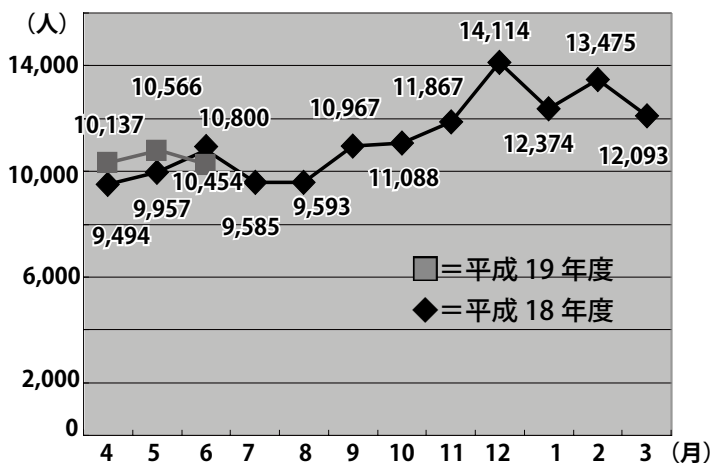
今号は昨年の運行結果と本格運行への課題などについて、お知らせします。

● 利用者数

平成18年4月～平成19年3月の間の利用者数合計は延べ135,407人で、当別町民1人あたりで割り返すと約7回の利用があったことになります。

12月から3月の冬季間の利用者は数は4月から11月の間の利用者数と比べて、月平均で約25%の利用増がありました。

▼ 月別乗車数推移

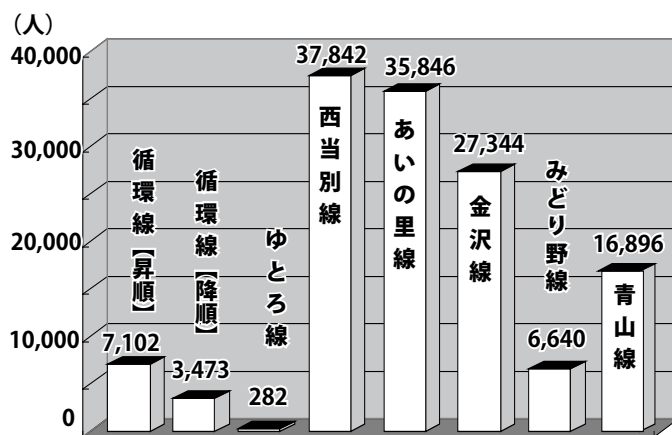


● 平成18年度路線別の状況

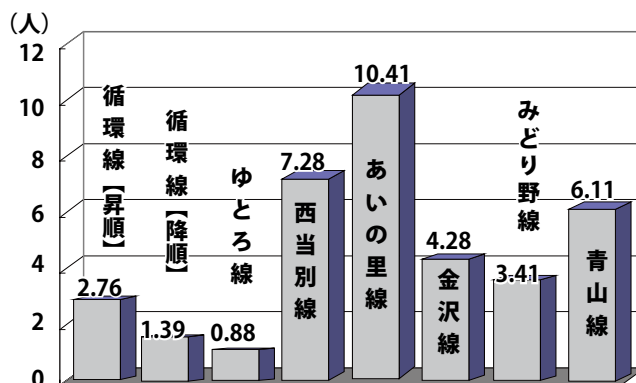
平成18年4月～平成19年3月の路線別の利用は西当別線が最も多く、続いてあいの里線、金沢線、青山線となっています。

ゆとり線は12月～3月の運行、市街地循環線は12月から土日祝が運休となりました。

▼ 路線別利用者数



▼ 1便あたりの利用者数





● 運行経費

平成 18 年度のバス運行に係る経費は、表のとおりです。運行コストは約 5,100 万円で、その約 7 割が人件費、約 2 割が車両費と燃料費となっています。また利用者の運賃、定期券購入による運賃収入は約 840 万円で、コストに対して 16%でした。

その他の財源として、参加事業者の負担金と国からの補助金などで補っています。**本格運行では、国からの補助金がなくなりますので、更に効率的な運行計画、適正な運賃、事業者負担のあり方などの検討を重ねなければなりません。**

▼ 運行収入

	合計 (円)	定期券 (円)	運賃 (円)
収入合計	8,404,290	4,867,400 (57.9%)	3,536,890 (42.1%)
1km あたり	31.7	18.4	13.4
1人あたり	62.1	35.9	26.1

● 18 年度運行の評価

《運行全般》

平成 18 年度は 2 回のダイヤ改正と 1 回の路線変更を行った結果、利用者数が伸びました。このことから、多くのバス利用者が潜在しているものと推察されます。

市街地・商店街の活性化を図るため、市街地循環線とゆとろ線（12 月から運行）を新規路線として運行したものの、利用者数は伸び悩みました。この路線については、明確な運行目的が必要だと考えられます。

割安感の高い「定期券」が、主たる収入と予想していましたが、約 6 割が乗車時「運賃」によるものでした（3 月事前販売分除く）。まだ恒常的な利用には至っていないと思われ、地域の足となるには、継続的な運行が必要であると考えます。

《参加事業者》

参加事業者は、ふれあいバスに参画したことで、独自に運行していたコストよりも、約 12%の経費節減が図られました。

運行路線とダイヤの一元化により、各事業者の機動力・柔軟性が薄れ、JR との接続時間や病院などの通勤・通院に要する時間が増加しました。更なる運行ダイヤと路線の工夫が求められます。



● 環境へ配慮したバス運行

ふれあいバス運行事業者の、(有)下段モータースでは環境問題に配慮し、「使用済みてんぷら油」を回収しバイオディーゼル燃料として、コミュニティバスの運行に利用しています。ごみの減量、地球温暖化防止のため、皆様のご協力をお願いします。

▼回収場所・問合せ

(有) 下段モータース (☎ 23 - 2630)

▼ 運行コスト

項目	金額 (円)	備考	構成比	
バス運行業務	人件費	35,380,800	運転手・事務員	69.3%
	車両費	6,057,120	借上料・メンテナンス・保険料等	11.9%
	燃料費	4,809,410		9.4%
	バス停費	1,500,684	借上料・維持管理費等	2.9%
	その他諸経費	2,553,842	運行管理費・定期券作成・清掃費等	5.0%
	消費税	746,052	人件費除く	1.5%
運行コスト	支出計	51,047,908	人件費除く	100.0%
	1km あたり	192.8	実車走行距離 264,825.0km	
	1人あたり	377.0	利用者数 135,407 人	

■ 本格運行に向けて ～地域の足として～

昭和 40 年代の当別町では、札幌、江別、新篠津、厚田（石狩渡船場経由）、青山四番川方面への 5 路線で、1 日に約 80 便の民間バスが地域の足として運行していましたが、マイカー時代の到来と共に路線廃止が続き、平成 18 年 3 月には江別、青山方面の 2 路線のみの運行となっていました。

町では、高齢化社会の進展に伴い、あらためて地域の足の確保を目的にバス交通体系の確立を行財政システム再構築プランの重点施策の一つとしました。

“ふれあいバス”を運行させることで、気軽に外出でき、人との出会いやコミュニケーションが生まれ、町の活性化が図られることを期待しています。

また、環境保全、交通事故の減少など、安心安全のメリットも生まれます。

本格運行に向けて、二年目の試験運行を実施する今年、このバスを地域の人々との支えあいのツールとして、地域の足として定着することを目標に運行していきますので、より多くの町民の皆さんに利用をお願いします。

運行の継続は、皆さんの応援に懸かっています！

▼問合せ 企画課企画振興係
(☎ 23 - 3042)

